

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400056		
法人名	社会福祉法人 さいか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホーム楓の杜		
所在地	兵庫県豊岡市竹野町林600番地		
自己評価作成日	令和 4年 1月 25 日	評価結果市町村受理日	令和4年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topijigovsyo_index

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度法人スローガン・つよい法人となろうを主に考え、グループホームでは【どうしたら出来るか考え行動に移す】を目標に掲げ、日々笑顔で接し毎日笑いが絶えない生活環境を提供する。コロナ禍の社会ではあるが、地産地消の食材で身体の内面から強い体質になって頂き、コロナ以外の病気にかからない・現状の病気を少しでも改善されるよう季節感あふれる食事を提供し、施設内の新設したレストラン・バルコニー・テラス等を活用し入居者様の居住環境に新しいサービスを提供してゆく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、広い敷地の中に、高齢者向けの5事業所と、しょうがい者向けの2事業所を運営している。法人の理事長の建築家としての経験に基づいたデザインコンセプトによって、各事業所は内外装ともに木材がふんだんに使われており、毎年、増築による拡充を遂げている。広い敷地の一角にあるグループホームの利用者は、コロナ下でも、事業所間の渡り廊下を通り、ケアハウスの2階部分に巡らされた回廊から大きな樹々の桜を愛で、階下の新しいレストランの洒落た薪ストーブの前でコーヒーなどを楽しむことが出来る。新型コロナウイルスがもう少し収束すれば、それらのハード面での特徴を活かし、地域住民とのおつきあいも復活するものと思われる。その中で、法人の基本方針である、ふれあい、ささえあい、おもいあい、かたがりあい、ひろげあい、みつめあいという「六つの愛(あい)」が結実することを期

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊岡市在住の入居者の利用が原則として考え法人理念【絆】と共に「あなたに出会えて良かった」と思ってもらえる様に従事する職員が理念を共有し施設運営活動の実践に努めている。	法人の理念と基本方針を額装して掲示し、パンフレットにも記載して对外発信している。更に、法人のスローガンや事業所として「きちんとした挨拶」などの月間目標を設定している。ミーティングで確認するなどの周知する工夫は、特にしていない。	法人理念について、定例会議の中で周知するなどの工夫をされたらどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度も新型コロナウイルス感染症予防ため地域活動もほぼ中止で有り交流が全く出来ない状態であった。	事業所として地区のコミュニティに参加している。隣接しているケアハウスの回廊の完成披露をし、地域のケアマネや事業所、近隣住民など、延べ約50名が来訪した。4月には、同回廊をライトアップして花見の行事を開催する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度も新型コロナウイルス感染症予防にて地域貢献は実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防にて開催が出来ていない。本年度施設内のみで行事活動の資料の送付を考えている。	コロナ禍前は、家族代表、地域代表兼民生委員、市の担当部署、社協などが参加していた。コロナ禍以降は、書面開催も行っていないので議事録は無い。	書面開催であっても、利用者の介護度、実施した行事内容、入退院状況、ヒヤリハットなどの報告(委員向けと全家族向け)は、必須だと思います。今年度は、年度サマリーを作成して報告されたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所申込が香美町の方が8割を超えている為、豊岡市に香美町の方の入居希望等の相談もした。また介護保険申請代行時にわからない点は相談をしている。	市との折衝事項は、基本、法人事務所の総務が担当しており、コロナワクチンの接種に関しても総務が担当した。市に隣接する町の住民からの入所依頼が多く、市、町、事業所、家族という複雑な連携を経て、現在3名が入居している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員に身体拘束のファイルを策定し研修した。正面玄関も門扉の施錠はせづ玄関も施錠はしていない。	夜間、ベッドからポータブルトイレへの移動時に転倒する恐れがある利用者が数名あり、センサーマットを使用しているが、身体拘束に該当しないケアに努めている。使用を常態化させないカンファレンスの記録が無い。身体拘束適正化委員会を開催しているが、委員会の構成メンバーが明確になっていない。職員は厚労省の「身体拘束ゼロへの手引き」を自習で学んでいる。	カンファレンスの記録を残すことは必須事項になっています。適正化委員会のメンバーを明確にした上で、委員会を開催して下さい。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員間で常に注意が出来る環境に努めた。月間目標を策定し全職員で取り組んだ。入浴時・排泄時に身体の観察に努めた。	ケアの際に大きな声を出したり、スピーチロックが散見されるので、管理者は、極力件数を少なくしたいとの思いで指導している。精神的な虐待防止に関する教材の準備ができていない。	神戸市が制作し、ネットで視聴できる「虐待防止研修の教材」を、活用されたらどうであろうか。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	12月に豊岡市高年介護課多目的ホールにて3名実践経験に基づき講習会に参加し研修報告書を提出した。日々のミーティングにて事例を参照し認識を高めた。	現在、成年後見制度を利用している事例は無い。昨年12月に開催された外部研修に看護師とケアマネが参加し、研修終了後に伝達研修を行った。契約説明時に家族に渡せるようなリーフレットを準備していない。	成年後見制度を概説したリーフレットを市や包括支援センターから入手し、職員研修や家族に渡す資料にされたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家人様代理人様に説明し理解を頂いている。本年度は介護報酬の改定もあり料金改定書を作成し送付し了解を得た。(記名捺印後返送頂いた)	今年度は4名の新規入居者があった。自宅を利用者と会って説明する際には、管理者の他に看護師も同席する。①看取りを希望する場所②救急時の延命措置の是非③重度化した際に事業所が出来ることと出来ない事などを説明し、家族から確認を得る文書が無い。	左記の①②③の準備が急がれます。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策もあり出来ない事が多くあり要望にすべからず対応できなかった。面会もコロナ感染症の状況を見ながら出来る時には面会案内し希望されるご家族に対応した。	コロナ下での面会に関する希望が多く寄せられており、出来る範囲で対応している。面会は事務所の総務が調整を担当しており、15分刻みの予約制で法人全体で1日4組に制限している。利用者向けの生活用品や着替えも法人の事務所経由で届けることとなり、職員が家族と日常的に接する機会は少ない。毎年恒例の家族向けのアンケートは、今年度は行っていない。	家族向けのアンケートは、家族からの声を聴く、数少ない機会の一つだと思いますので、是非復活させて頂きたいと思えます。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週火曜日の会議の中で部署からの意見を管理者・リーダー・ケアマネ等が意見を述べている。	毎日の日勤引継ぎの際に、職員からの意見を聴く機会を設けている。意見の内容によっては、毎週1回開催され、管理者、ケアマネ、リーダーが出席するランチタイムミーティングで取り上げられる。洗濯機を容量が大きいのに買い替え、オープンレンジ、空気清浄機、ノンアルコール除菌液などを購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	10月より夜勤従事者の育成をはかり向上心がもてる勤務形態・やりがい等と向上心が持てる環境を整備に努めた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がケアマネ試験、介護福祉士試験受に組み入れる環境を努力し実際2名の職員が受けた。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策に為交流事業は実施していない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には管理者・ケアマネ・看護師・リーダー等が面接を行い・本人の意向・思いを聞き安心して利用できる取り組みをした。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や、面接日等に家人様より要望・不安事を聞く為複数人数で訪問する事に心掛けたが新型コロナウイルス感染症予防の為出来ない場面もあった。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設のサービスを利用されていた方は、担当ケアマネよりフェイスシートの提供をしてもらい、まず必要とするツールを見極め主たる介護者の協力も得ながら進めたかった。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	通信カラオケ機器にて好みの音楽を流し声を出して頂き歌の唱和を行い、ピアノが弾ける入居者と豊岡市歌の唱和取り組んだ。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診・面会時等に家族と会われ会話の機会を設けた。時には施設の携帯電話より家人様(代理人)様等に架電しお話をしていた。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策の為本年度実施していない。	事業所通信の他に、毎月の家族向けのお便りの中で、利用者のスナップ写真をA4サイズ数枚にプリントし、近況を添えて送っている。家族とは、面会の他に事業所の電話を使って話して貰ったりしている。元教師の利用者が弾くエレクトーンや職員が演奏するクラリネット、通信カラオケ、市歌の練習などが、利用者にとって馴染みの新しい楽しみとなっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同して物事に取り組んで頂いた。リハビリテーション活動。豊岡市歌の練習。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設運営の中で柔軟に対応できるよう努めている。退去された入居者様の家人様に必要な情報は提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に入居者様の担当制を行い意向の把握に努めているが、満足されている状況でもない。コロナ感染症対策で出来ること・出来ないことが有るため。	1人の正職員が2人から5名の利用者の担当となっており、利用者の意向を把握しやす関係性を築いている。発語が困難な利用者でも、職員からの声掛けには笑顔などで反応があり、お互いに意志は通じ合っている。新しく把握した意向などはケース記録や業務日誌に記載し、職員間で情報共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネ・家人様より情報を提供して頂き個人の生活歴等の把握に努めた。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の1日の過ごし方を見定めて職員間で同じ認識を取ることに努めた。ADLの低下・認知症の進行により変化あるときもあり難しい時もある。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当ケアマネを中心に、本人・家族・職員担当者・管理者を含めその方の現状に即した計画を模索し計画している。本人の意思表示が困難な方は家族の意向を反映している。	利用者を担当している職員からの意見を聴きながら、ケアマネが3か月ごとにモニタリングし、半年ごとの計画更新につなげているが、担当者会議の記録が無い。介護計画とそのサービス内容に連動したモニタリング評価をパソコンに入力しているが、サービス内容がモニタリングし易い項目に分けられていないケースがある。モニタリングの評価が、○や△という記号の記載だけに留まっているケースが多い。モニタリング評価表をプリントしてファイルしているが、文字列がセルの枠内に収まっていない部分があるので見づらい。	短期のサービス内容を、モニタリングがし易い単位で設定されたらどうであろうか。モニタリング評価表をプリントする際には、事前にプリントイメージを確認し、エクセルの「セルの書式設定」で調整する事をお勧めします。来訪時や電話で聴き取った家族からの希望や意を反映した担当者会議の記録を残してください。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はほのぼの上でケースに落としているほか、家人様に送付する手紙の中等にも記載すうよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染症対策もあり規制はあるが出来ることを模索し取り組んだ。しかしながら困難な面も有り十分とは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度のコロナ感染症対策の為地域に出むことが出来ず支援は出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月訪問診療時に施設看護師・管理者・ケアマネが身体の状態・病気の症状を説明し医師より指示を頂いている。専門性の高い症状の時は紹介状にて豊岡病院等の専門医を受診している。	3人のかかりつけ医が利用者を担当しており、一般内科は月に1~2回、歯科は月1回の訪問診療である。他科はかかりつけ医の紹介により、看護師か職員の付き添いで受診している。入居前からの主治医に家族の付き添いで受診する利用者もある。利用者の状態を看護師が把握して指示を受ける形で医療連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職は配置していないが週2回勤務する看護師と、施設常勤の看護師と連携を取り入居者様のケアに努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・施設看護師・管理者・施設ケアマネ・家族様と情報を共有することに努めている。関係する医療機関IIには速やかに情報を提供している。	今年度数名の利用者が入院したが、いずれも1~2週間で退院した。主治医との連携によって、入院先は協力医療機関が多い。入院時は情報を提供し必要物品を届けて、利用者の病状を把握している。退院時には主治医と事業所にサマリーが届き、看護師と相談のうで受け入れ態勢を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当主治医・施設看護師・管理者・ケアマネ・家族を含め本人の身体の状態を鑑みて行い施設で出来ること・出来ないこと・主治医が可能な事・家族の思い等を早い段階から協議し最善な方向・処置対応の提案をしている。	今年度数名の看取りをした。看取り期に入る時点で医師、家族、事業所が話し合い、事業所で出来る事などを口頭で伝えている。契約時に重度化や終末期に向けての指針や、緊急時の対応方法などは示さず文書化もしていない。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師が中心になり、職員に指導をしている。コロナ感染症対策もあり消防署による救急救命(心配蘇生法)の実施訓練はしていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災拠点での実施訓練に職員が参加した。コロナ感染症対策の為限定的な対応でしかできていない。非常食の配布。	通報システムと水消火器の使用法の訓練をしたが、消防署へは計画書の提出をし、実施記録は残していない。職員が地域の避難訓練に参加しており、万一の災害発生時は、地域の消防団の協力体制は整っている。次年度には車両を利用して地域の避難場所への利用者避難訓練を実施する予定である。	避難訓練等の実施記録を残して下さい。現在予定している、法人の総合避難訓練を是非とも実施して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉使いも人格を損ねかねない言動があることは否定できないが、今年度は毎月目標を立て改善すべく努力をした。注意指導も精力的に行った。	3月の事業所目標を「利用者与会話に心掛け話しかける機会をつくるよう努める」と掲げて、職員の意識向上を図っている。転倒の恐れがある利用者への、声掛け時は大声や命令的口調にならないよう注意している。入浴中はドアに「入浴中」の札を下げると共に、職員が入室する際にはノックを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々従事する職員が努力をしているが全ての思いに対応できていない。ひとつでも多く支援が出来るよう職員教育を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員による流れ作業的な感が拭えない。昨年より改善はしていると感じているが今一步踏み込んで努力して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族より季節に応じた衣類を提供されているので職員が季節感のある衣類提案する支援をしているが全てを満たすところまでは出来ていない。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と調理をすることは現状できていないが、施設行事として季節ごとに職員が調理をして日ごろ提供できない食事を提供した。地元の食材を使用した食事。2月3日巻きずしを利用者様3名で巻いて頂いた。	食事は法人の厨房で調理され、各ユニットでは炊飯してみそ汁を温めている。利用者の希望を聴きながら、ブレンダーで作った四季折々の季節の野菜を食材にした食事レクを実施している。節分には、地元産の米を炊き巻きずし作りをした。菜園から収穫してぬかに漬けている香の物が食卓に並ぶ事もある。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分提供は季節を問わず進めた。お茶はほうじ茶を毎食時提供。10時・15時は各種の飲みもを提供し、入浴前にも水分を提供し、入浴後も提供した。食事量も医師からの指示がある方については制限内で提供した。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様個々に対応した口腔ケアの支援をした。必要あるときは歯科訪問診療にて対応した。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導可能な方は昼夜を問わずトイレ誘導をして個々の力を継続する取り組みをした。	一部介助や誘導が必要がある利用者もあるが、ほぼ全員がトイレを利用している。夜間おむつ使用者も体調を見ながら、日中はトイレ誘導をしている。入院中はおむつを使用していた利用者が、退院後にトイレ誘導を重ねた結果、リハビリパンツに戻った例がある。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を利用し予防に努め、主治医相談し排便コントロール薬の処方も個々に対応した。ほのぼのにて排泄記録入力をしている。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の健康状態を把握し、個浴・特浴の入浴を計画した。週2回は入浴できるよう担当職員が計画した。	基本、週に2回の入浴となっているが、入浴拒否や体調などの状況により柔軟な対応をしている。異性の介助を嫌う利用者には、職員交代で対応したり予定日を変更して対応している。数名の利用者は隣接している事業所の機械浴を利用している。	入浴時に、季節感を味わってもらう工夫をされてはいかがか。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の特性の応じた対応に努めた。睡眠導入剤が軽減できる入居者様は担当主治医に説明し減薬して頂いた。昼食後は13時～15時に昼寝を推奨した。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬は管理者・施設看護師が管理・保管する。服薬は日々の職員で対応した。個々の処方・用法・容量変更時は薬概況表・薬手帳を参照した。服薬前の薬のダブルチェックも毎日で行った。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本年度施設内で開設したレストランに足を運びコーヒーサービスを受けた。洗濯物たたみも女性入居様が「中心となり取り組んで頂いた。テーブル拭き掃除もお願いした。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策で施設外の外出は病院受診以外は出来ていないが、施設内の散歩には出られた。新築したデッキテラス等。施設内レストラン等。	コロナ禍で実施できなかったが、普段は通院時に遠回りのドライブをしたり、隣接する法人のレストランにコーヒーを飲みに行く際に広い敷地内を散歩するなど、気分転換ができる機会を作っている。デッキテラスでお茶やおやつを楽しんだり、プランターの野菜の水やりや収穫が利用者の楽しみとなっている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金所持の支援はしていない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人様・友人の方からの電話はおつなぎしているが、代理人様の承諾が無い方はご遠慮いただいている。お手紙・はがき等が郵送させてくれればお渡ししている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花を生けている。リビングの壁等にも心地よく過ごせるような物を掲示している。	リビングとキッチンを真ん中にして、左右に相似形に広がった建物は長い廊下で2つのユニットが繋がりが、中央から双方が見渡せ、窓から見える草木で季節が感じられる。利用者はゲームをしたり、洗濯たたみやおやつ作りなど個々に出来る事に取り組んでいる。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気候が穏やかな日は玄関テラスにて日光浴が出来る環境を整え、お茶会・食事も楽しんで頂き、気の合う方同士お話し出来るテーブルも用意をした。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使い慣れた物をじさんれている入居者様あるが、個々の方が居心地よい環境かはっきりわからないが、職員が出来ることは支援した。	事業所からは、ベッドやクローゼット、エアコンなどが準備され、防災カーテンや寝具はリースとなっている。利用者は自宅で使用していた馴染みの家具などを持ち込み、過ごしやすい生活空間を作っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設開業より14年が経過する中、老朽化した箇所・電化製品等は理事会の承認をえて修繕し電化製品等は製品を新たに購入した。安全な環境づくりに取り組んだ。		